

乙

本年三月中東京池之端寶丹本舖守田治兵衛氏の父寶丹翁の施印に係かる震災前知身體
保全法の一紙を見るに頰部の動脈と左手の動脈とを合せ其異状なきを知り若其脈度乱
るゝときは一晝夜の内に變死すべきの兆あることを記せり爾來日夜之を試みらば去月

二日當國御原郡追分村井上マツ宅に講會
ありて十餘名出席の折偶々此脈度の
談に及びたれば各々試むるゝ異状

なし内一人同郡檜原村松田吉太郎

といふもの動脈乱れ居るとの事より

小生直に之を診すをば全く其言の如し

然ども同人ハ三十五歳の壯夫身骨強健

因て始めて寶丹翁の保全法の誠ハ玄妙なるゝ感服せり但し翁は變死に就て前知の事を

説れたきども病死も亦同じ兆候を顯へすものたるを知る爰ハ聊か翁の厚意を謝し

並せて大醫諸家の教示を仰げんとす



福岡縣筑後國久留米市米屋町茶商

明治二十五年壬辰九月二日

吉 川 安 吉



按するに此試驗法の如きハ大ハに醫術診斷上簡便の新法にして參考に供すべきものと
思考せり幸ひに有志の君子新聞上に登録あらば生が最も満足するところなり